

## 2015 年度 卒業式式辞

中京大学学長 安村 仁志

### Congratulations! Graduates of the Class of 2015!

卒業おめでとうございます。あえて英語で始めましたのは、その意味を、今ここに集っている者全員で噛みしめたいからです。Congratulations のコンは「一緒に」、グラチュレイトは「感謝する、喜ぶ」という意味をもち、併せて「一緒に喜ぶ」ことを表しています。

全課程の学びという「業」を「卒」、終えた喜びは、まず皆さんのものです。ただ、その喜びは皆さんだけのものではないのです。講義やゼミで皆さんの学びを導いた教員、皆さんの学生生活をサポートした大学のスタッフも共に喜び、祝福しています。また、皆さんは今卒業の喜びを、共に学んだ友たちと分かち合っています。さらに、学びを励まし、支えてくださった家族の方々も喜びを共有しておられます。Congratulations!は、みんなの喜びであるという深い意味をもったことばなのです。

もう一つ噛みしめていただきたいことがあります。所定の学びを経て、今日皆さんが手にするのは一枚の「卒業証書」あるいは「学位記」に過ぎないように見えます。しかし、思い起こしてください。期待感とともに、なにがしかの不安をもって大学あるいは大学院に入ってから今日までのことを。日々の勉強・試験で悩んだり、苦しんだことがあるでしょう。勉学と部活の両立、勉学を続けるためのアルバイトに苦勞した人もあるでしょう。体調不良に陥った人も、就活でへとへとになった人もあるでしょう。そうしたことの中で、知の世界に触れて学業に励み・社会に出る力を獲得した、スポーツで頑張った、海外留学で知見を広げたくましくなった、人生の友に出会ったなど、さまざまなことを身につけたのです。簡単にはではなく、苦勞して、「学士」「修士」「博士」の学位を手にしたということです。そこに、喜びの源泉があるのです。

さて、卒業式はアメリカでは commencement とも言います。「commence 始まり」の日だということです。「終わり」のニュアンスをもつ卒業は同時に新たな生活の「始まり」であることを告げているのです。晴れやかな門出なのです。しかし、そこにもやはり多少の不安があるでしょうが、皆さん、中京大学での学びを通じて身につけた力を信じて、勇躍新しい生活を始めてください。

本学は 1954 年に開学しました。その時の入学生は 75 名、男子 69 名、女子 6 名でした。小さな一歩でした。しかし、そこから《中京大生》という道が切り拓かれました。それは、その跡を辿ったすでに 12 万人以上にもなる卒業生によって踏み固められ、今や大路となっています。皆さんには、国内各地、世界に頼れる同窓生がいます。力強く旅立ち、自らも新しい道を開拓して行ってください。みなさんの前途に“栄光あれ！”

どうぞ、中京大学で学んだということをこれからの支えとしてください。建学の精神は、ご存じのとおり《学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ》です。学術の場では、学術の研鑽

とジェントルマンシップの醸成、スポーツの場では、健康の増強、心技の錬成、スポーツマンシップの体得が目指されています。そして、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、というスポーツマンシップの4つの要素が、社会的存在としての人間の素養と結びつけられています。

思うに、「ルールを守る」とは、秩序の保持に不可欠であるだけでなく、人としての信頼につながるものです。人が見ていようと、いまいが、守ることは自身の尊厳にかかわることです。「ベストを尽くす」は、事に当たる際の心構えだけでなく、独りよがりでない、周りの人への配慮も込められています。「チームワークをつくる」においては、力や役割などの面で自分とは異なる人を互いに認め合い、助け合うことが根本にあります。誰一人欠けてもうまくいかないという状態になるということです。最後の「相手に敬意を持つ」は至高の目標です。英語では **respect the opponent** です。オポウネントとは、「相手」だけでなく「敵対者」をも含みます。スポーツにおいて対戦する相手に敬意を持つということ以外に、自分とは異なる考え方を持つ人をも受け入れ、対話する姿勢を持つということでもあります。非常に難しいことですが、小さなことでもそうなれば平和につながります。

皆さんの大学はこうした高みを目指しており、その中で学んだことを大事にしてください。グローバル化が進んだ今日、さまざまな価値観が存在しますが、なんとしても「共に」「平和に」生きていくことを目指すうえで、大切なことが謳われているのです。

もう少しやさしく考えてみましょう。皆さんはディズニーの『クマのプーさん』を見たことがあるでしょう。でも、A.ミルンが書いた原作を読んだことがありますか。そこには、可愛いだけでないプーさんの、個性あふれる友たちとの暮らしのなかでの、何気ない行動、ことばに醸し出される不思議な魅力の世界があります。思わずハッとさせられるようなことばがあります。その一つを紹介しましょう。 **A little consideration, a little thought for others, makes all the difference.** 「ちょっと深く考えること、ちょっと人のことを思うことで、すべてはまったく変わるんだよ」ということです。皆さんがこれから出ていく社会では、これまでよりずっと人との出会いが広がるでしょう。年齢・キャリアの違う人、国籍の違う人、文化や習慣の違う人と一緒に生き、一緒に働きます。グローバルとは、「球」のイメージです。より具体的には「地球」規模で考え、行動し、生きるということです。今や地球の一点で起こったことの影響が瞬く間に地球全体に及びます。画一化しそうでいて、一方で「多様性」がいき働いています。先ほどのことばは、実に個性あふれる森の住民で、プーさんの仲間の一、ロバのイーヨーが口にしたものですが、何ともいーよーもなく深みのある言葉だと思えます。本学の掲げる四大綱を後押ししてくれるものです。

われわれの住む日本は、四季をほぼ均等に味わえる国で、自然景観も、産み出される作物も、植物も生き物も多様です。地域間のことばや文化も多様です。多様性には慣れているはずですが、しかし、一方で極東の島国であることから隣りの国をも「外国」と呼んでしまうなど、やや内向きなところもありそうです。それらの面を活かし、克服しながら羽ばたいていってください。大学での学びは視野を拓げるとともに、専門知識を高めるという

場でありました。素地はできています。どうぞ自信をもって新しい生活をコメンズしてください。

中京大学は皆さんにとって、母校です。同時に、世界へ船出していく母港でもあります。いつでも戻り、訪ねてくることのできる場です。大学はそれに応えられるよう既に策定している計画《NEXT10》を確実に推進し、質の高い大学を目指して進んでいきます。研究に根差した教育、学生を大事にし、しっかり育てることを掲げ続けます。どこからにても支援してください。

最後に、改めて皆さんの努力に拍手を送ります。指導に当たってくださった教職員の方々に感謝します。ご子弟の旅立ちを共に喜ぶためおいで下さった保護者の皆さまにも敬意を表します。門出を祝ってご臨席くださった来賓の方々にも感謝申し上げます。

最後にもう一度、すべての者で、今日の卒業式を共に喜びましょう。 **Congratulations!**